

令和5年度事業の総括

1. 食の安全安心の確保

(1) 良好、安全な食材の調達

①地場野菜の取入れを引き続き推進しました。

(令和5年度) : 12,046.8kg (野菜全体使用量の 11.40%)

※参考(令和4年度) : 19,779.3kg (野菜全体使用量の 18.24%)

②農薬や細菌の検査を実施し、良好で安全な食材の調達に努めました。

細菌等検査 : 176 検体

(農薬関係 8 検体、細菌関係 114 検体、金属関係 6 検体、食器類 48 検体)

0-157 検査 : 110 検体

(2) 放射能への対応

放射能検査などを実施し、良好で安全な給食の提供に努めました。

①外部機関による放射能検査の実施 ②丁寧な食材洗浄の励行

②保護者等への情報提供(食材の予定産地、放射能測定の結果)

・食材の予定産地の公表 : 8 月を除き毎月 1 回 ・外部機関による放射能検査 : 54 検体

保護者への情報提供 : ホームページ及び書面(適宜)

(3) 給食の充実

・市内の調理・製菓のプロフェッショナルを養成する学校「エコール辻東京」及び「くにたち図書とのコラボ給食を企画・実施いたしました。

・「輸出用ホタテ貝応援事業」として無償提供のホタテを食材として使用しました。(「北海道森町」・「(一社)日本海老協会」)

・卒業する児童生徒に行ったアンケートによるリクエスト献立を実施いたしました。

・未就学児とその家族向けのステーション見学及び試食会を実施いたしました。(27 名参加)

・地場農産物の更なる活用促進のため、市内若手農家の方々にステーションを訪問していただき、懇談会及び試食・施設見学を行い、新規参入に向け協議を持ちました。

(4) 食物アレルギーへの対応

・献立内容の詳細資料や食材の成分関係資料の提供に努めました。

対応者数 : 小学校 105 名、中学校 22 名 ※参考(令和4年度) 小学校 99 名、中学校 31 名

・アレルギー事故防止のために食物アレルギー対応マニュアルに基づき、学校及び保護者との情報共有を始めとした連携体制を図っています。

・第2学期からのアレルギー等対応食を開始し、小学校 13 名・中学校 1 名に提供しました。

2. 食育の推進・学校との連携

・「国立市農業まつり」に出店して、低温長時間殺菌牛乳を販売いたしました。

・献立メモ等の情報提供に努めました。

・第一小学校2学年・第六小学校3学年・第八小学校3学年の児童がステーション訪問し、市栄養士によって、「施設見学」・「給食時間を過ごす」・「食育授業」を行いました。

・「あおとり保育園」(施設見学・模擬配膳体験)、認定こども園「国立富士見台団地風の子」(施設

見学・配膳・試食)の園児が市栄養士指導のもと、ステーション訪問しました。

- ・市内就学前施設の施設長等が施設見学及び試食を行いました。
- ・「市食育推進・給食ステーション」と「シダックス」共催による「食育セミナー」を2回開催しました。

3. 「くにたち食育推進・給食ステーション」開設関係

- ・8月17日に「くにたち食育推進・給食ステーション」開所記念式典を挙行了しました。
- ・8月23日にオープン記念試食会を実施しました。
(くにたち食育推進・給食ステーション及び第四・五小学校)
- ・8月にテストランを6回実施しました。
- ・開所を機に、各種団体が視察に訪問されました。(施設見学・概要説明・試食・質疑応答)
【鳥取市・モンゴル国ダランザドガト市・町田市・国分寺市・下関市・札幌市・うるま市・3市地区(国立・国分寺・府中消防団正副団長)

4. 円滑な運営管理の実施

(1) 給食費事務

- ・未納入給食費は給食の提供に影響が生じるので、未納入給食費が発生しないよう給食費徴収の徹底を図りました。
- ・昨今の物価高騰を鑑み、給食の質や量を維持することを目的に給食費会計の安定した収支に資するため、国の地方創生臨時交付金を活用して、30,000千円を充当いたしました。

(2) 各種委員会の運営

各種委員会の円滑な運営に努め、食育推進・給食ステーションの適正かつ円滑な運営に努めました。

- ①学校給食運営審議会：6回開催 ②学校給食献立作成委員会：8月を除き毎月開催
- ③学校給食用物資納入登録業者選定委員会：7月を除き毎月開催 ④給食主任会：2回開催

(3) SPCとの維持管理・運営に関する定例打合せ会議を月1回開催し、現状報告や課題の抽出とその対策方法の協議・懸案事項の確認などを行いました。

※今後の課題

- ・学校給食費の見直し(改定)の検討を今年度中に行う。
- ・若手農家・農協・農業振興担当の方々と協議を進め、地場野菜の積極的な使用に関してご理解・ご協力をいただきながら、今後の将来的な計画を見据えて、徐々にとはなるが食材物資納品を進めていく。
- ・食育推進に関しては、令和5年度において「美味しく安心安全な給食を提供する・アレルギー対応食をインシデントなく実施する・子供たちに楽しい給食時間を過ごしてもらう」ことを第一に考え、栄養士総出で業務を行った。

今後は、①学校との連携で(全校での)食育授業を行っていく。②「ただ給食を作っている所」で、目立たず地味だった旧来の給食センターのイメージを打破し、改めて、当ステーションは「市の食育の拠点の一つ」として生まれ変わったことを市民全体に周知するよう心掛け、認知度を最大級に上げて、将来的には、世代を超越した市全体の食育を推進していくために、情報発信に、最大限、注力していく。③学校訪問は当然なこととして、可能な範囲で、他課の企画への参画も含めて、「出向き」・「出歩く」・「身近に感じていただける」、そんな栄養士集団を構築していく。